

インタラクティブ空間演習 （女子美術大学大学院）

【講義】 〈コミュニケーション〉 と 〈メディア〉

講義担当： 石井 拓洋

takuyo.ishii (a) gmail.com

2020

1. 〈コミュニケーション〉とは

「コミュニケーション」の多義性

- 「意見の交換や意志の疎通」を示す
ex.) 「親子のコミュニケーション」、「企業のコミュニケーション」
- 「通信」を示す
ex.) 「コミュニケーション産業」
- 「往来や交通」を示す
ex.) 「都市間の交通コミュニケーション」

出典：石田英敬『記号の知／メディアの知：日常生活批判のためのレッスン』97頁。

1. 〈コミュニケーション〉とは

「コミュニケーション」の多義性

- ・ 「**記号の**制作、伝達、受容、解釈からなる**表現 (※)**の働き、もしくはその中で**記号作用、伝達、受容、解釈情報が循環する回路**のこと」
(「コミュニケーション」、『岩波哲学・思想事典』543頁)

(※) 「**表現**」：意見・思想・感情などの〈内的なもの〉を、言葉・身振り・表情などの〈外的なもの〉に**表すこと**、またその〈外的なもの〉のこと。

(「表現」、『岩波哲学・思想事典』1337頁)

1. 〈コミュニケーション〉とは

「コミュニケーション」の語源

communicate 英語 v.t. 「伝達する」、 v.i. 伝え合う

→ **communicare** ラテン語 【コミュニカーレ】 **共通にする**

→ **communis** ラテン語 【コミュニス】 **共通の**

「コミュニケーションは文字通り『共通の』ものを生み出す働きである」 [池上、37頁]

「共通にする」 ための手段としての「通じ合う」 必要性

→ そこから **「伝え合う」という今日的な意味が発生** [石田、97頁]

1. 〈コミュニケーション〉とは

何を「伝え合うのか」？

コミュニケーションでは

〈メッセージ〉 message を「伝え合う」

1. 〈コミュニケーション〉とは

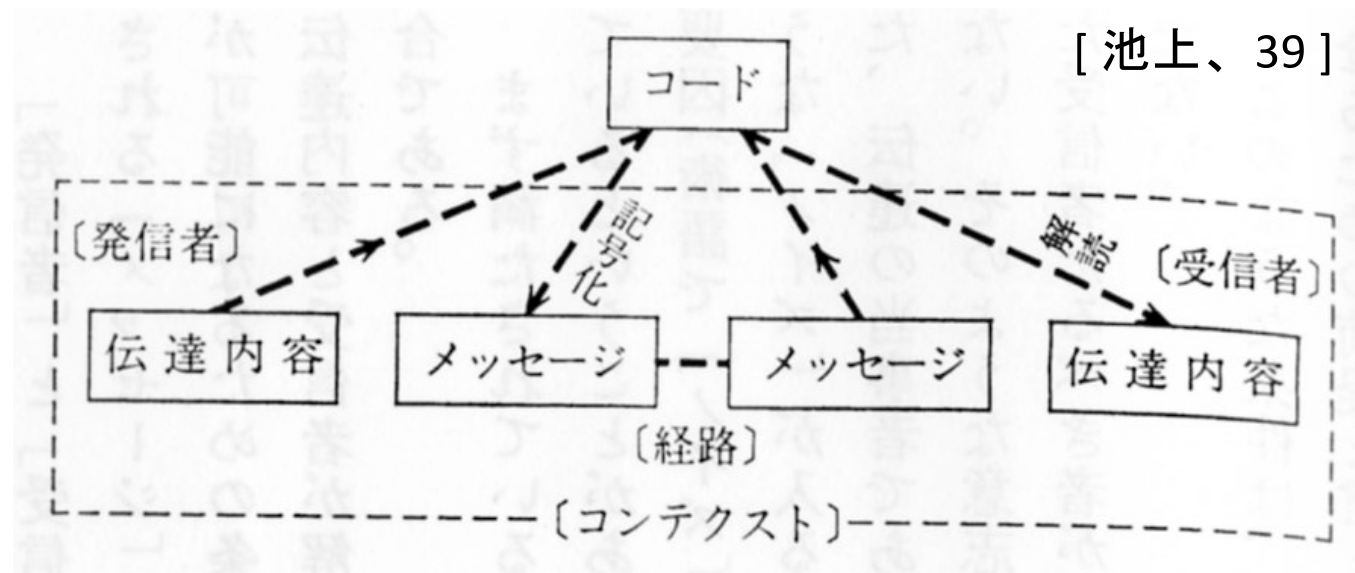
「メッセージ」とは？

伝達するためには、**思ったり感じたりしている事柄を表現する**（文字通り、「**表に表わす**」）ということが**必要**である。
そのようにして**表現されたものが〈メッセージ〉**と呼ばれる。

[池上嘉彦『記号論への招待』、38-39]

1. 〈コミュニケーション〉とは

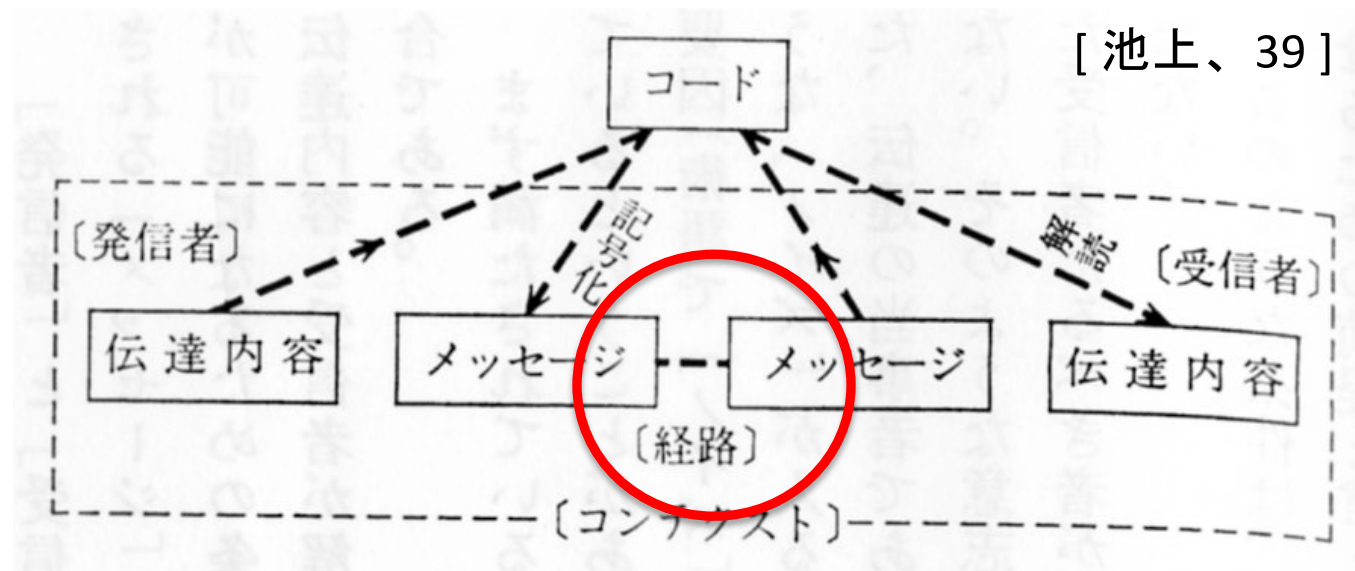
「メッセージ」とは？



メッセージは、発信者と受信者との共通の了解に基づいた決まり
つまり、コード に従って「制作」され「解釈」される。

1. 〈コミュニケーション〉とは

「メッセージ」を伝達するには？



メッセージを、伝達・受容するためには、、、

メッセージをのせて運ぶための媒体 〈メディア〉が必要

2. 〈メディア〉について

〈メディア〉とは、どのような〈形〉で存在しているのか？

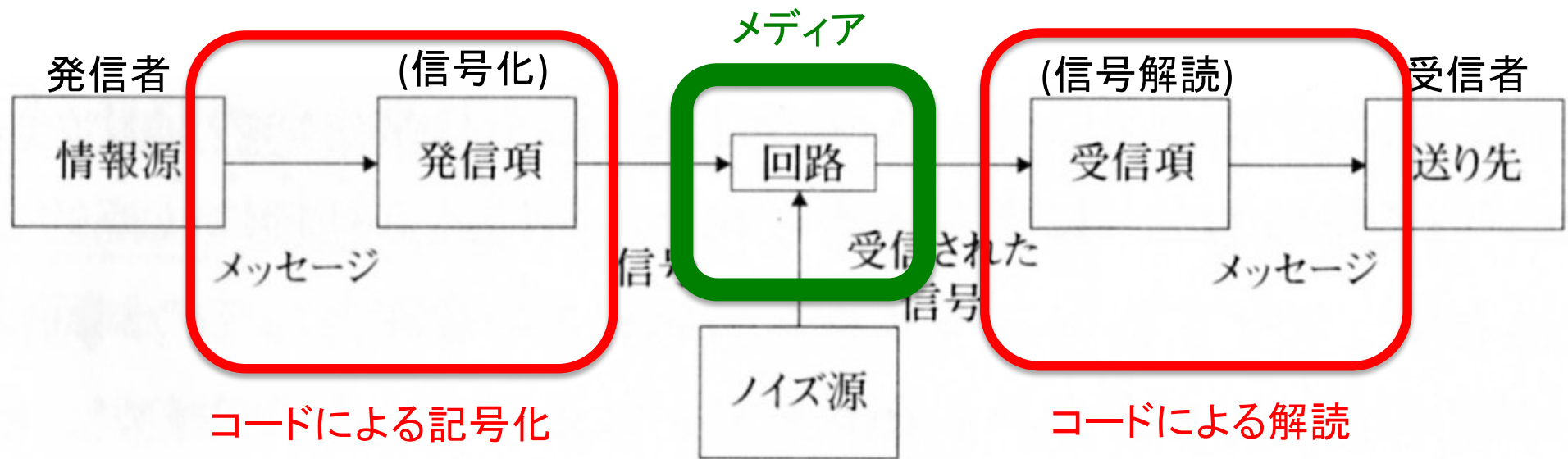
- ・ 〈メディア〉であるといえるのは、
〈物体〉に文字や画像などの〈記号 = メッセージ〉が記された状態になっており、
〈記号 = メッセージ〉を読み取ることができる環境になっていること

つまり

- ・ **メディアとは 記号性を帯びた物質的な存在である**

参考 [石田: 86]

3. 〈コミュニケーション〉の仕組み

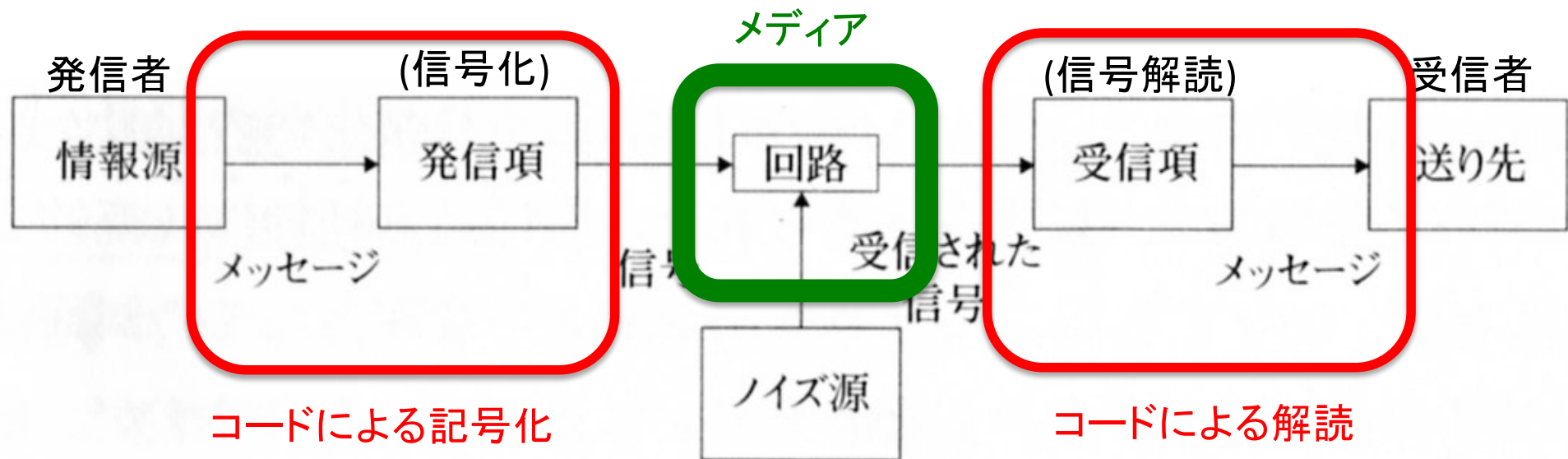


「シャノンとウィーバーのコミュニケーションモデル」(1949)

→ 「電話モデル」に基づく **技術的側面に限定したコミュニケーションを数量化 (数式化) した。**

→ 「コミュニケーション」の過程、**情報量を数量化**した。「情報エントロピー」(情報の不可逆性)の大小。

3. 〈コミュニケーション〉の仕組み



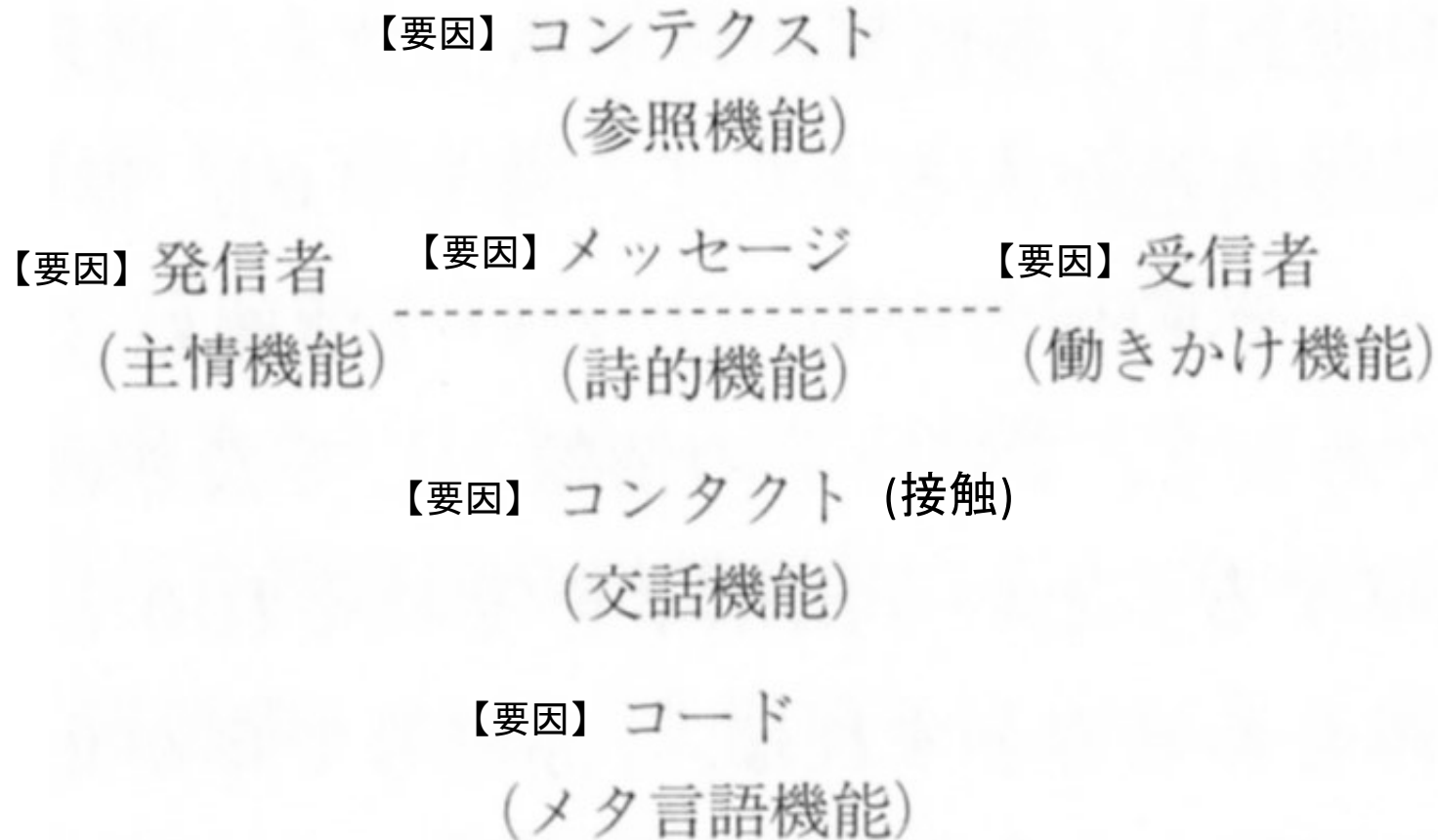
【原著】 C.Shannon & W.Weaver “*The mathematical theory of communication*” University of Illinois press, 1949.

【邦訳】 C・シャノン & W・ウィーバー 『コミュニケーションの数学的理論：情報理論の基礎』
長谷川淳ほか訳、東京：明治図書出版、1949年=1969年。

3. 〈コミュニケーション〉の仕組み

「コミュニケーション理論」について

ヤコブソンの「六機能図式」(1960頃)



3. 〈コミュニケーション〉の仕組み 「コミュニケーション理論」について

ヤコブソンの「六機能図式」(1960頃)

発信者 - 主情機能 : 「ああ！」という嘆きなど、話し手の感情を直接表す機能

受信者 - 働きかけ機能 : 「～しなさい」とする 命令 や依頼を表す機能

コンテキスト - 参照機能 : 語が用いられている状況、前後関係の文脈を表す機能

コンタクト (接触) - 交話機能 : 「ねえ」等、相手の注意を引き、注意の持続を促す機能

コード - メタ言語機能 : 言語の文法や、言語活動をめぐる様々なルールを示す機能

メッセージ - 詩的機能 : メッセージそのものへの志向により表現を際立たせる機能

3. 〈コミュニケーション〉の仕組み 「コミュニケーション理論」について

ヤコブソンの「六機能図式」(1960頃)

- ・ シャノンらのモデルで用いられた用語を言語学分野に取り入れてモデル化
- ・ コミュニケーションを構成するために必須な6つの要因を指摘
- ・ 6つの要因にそれぞれ対応する 6つの機能を指摘
- ・ 6つの要因にそれぞれ対応する 6つの機能を指摘

参考文献、さらなる知識のために

- 石田英敬『記号の知／メディアの知：日常生活批判のためのレッスン』東京：東京大学出版会、2004年
- 池上嘉彦『記号論への招待』東京：岩波新書 (258)、1984年。